分布：全国

コナギ　（ミズアオイ 科）

学名：*Monochoria vaginalis* (モノコリア ヴァージナリス) ver. *plantaginea* (プランタギニア)

小梛　別名：ナギ，ミズナギ，イモグサ，ツバキグサ，ハート草

主な生育場所

かつて原産地の東南アジアから稲作とともに伝わってきたイネの随伴植物とされ，日本では水田や休耕田など，水田周辺にしか生育しない。種子寿命は長く，耕作放棄田でも復田すると発生してくる。

名前の由来：同属のミズアオイとともに，マキ科の樹木である梛（なぎ）の葉に似ていることからナギ。ミズアオイよりも小型のため，コナギ（小梛）。またサツマイモの葉にも似ているためイモグサ。

特 徴

嫌気的条件下で発芽する一年生の単子葉植物。線形の子葉に続き，やや広い線形葉が数枚展開し，光沢のある卵形あるいは心臓形の葉をつける。大株はやや横に這う。夏～秋に葉腋に短い花茎を伸ばし青紫色の6弁花を房状に2～8個ほどつける。開花後花茎は垂れ，多数の種子を含む長さ1cmほどの楕円形の果実をつける。

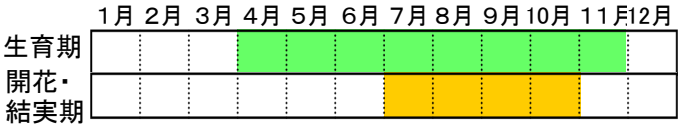
水田のコナギ（右下：マキ科の樹木ナギの葉）

＜農業との関係＞

ノビエと並び，稲作で見られる代表的な雑草。草高は低く，10～30cmほどだが，窒素等の吸肥力が高く，密生するとイネの生育が抑制されるため，古来から強害雑草として除草の対象となってきた。大株になると根が強く張り，除草に苦労するため，芽生えたばかりのコナギを這いつくばり取っていた。しかし，戦後の除草剤の普及により，今では有機農業などの水田以外はあまり見かけない。

幼植物（やや幅の広い線形葉）

＜生活史＞　関東 地方の例(目安)



1年あたり　1　世代

＜類似種＞

北日本に多いミズアオイは，湖沼や河川にも見られ，コナギより大型で葉の上まで花茎が伸び，総状に径2.5～3cmの花（コナギの花は径1.5～2cm）をつける。外来種のアメリカコナギは西日本に多く，葉は細長く基部は心形にならない。

コナギの花

＜一言うんちく＞

語源となった梛（ナギ）は熊野神社の神木とされ，凪ぐや薙ぐと通ずることから，船乗りを中心にその葉を身につけ災難除けや厄除けとしていました。またコナギの葉と同様に平行脈で縦方向には裂けにくいことから，夫婦円満の象徴ともされます。コナギも同じ効能があるかも知れません。

＜人との関わり合い＞

コナギは，イネの栽培に伴って大陸から渡ってきた水田雑草で，万葉集などにも登場するなど，古くから馴染みの植物である。ミズアオイも含む「ナギ」は，平安時代ごろまでは食用として栽培され，今でも東南アジアでは食することがある。最近，コナギを栄養分析した結果，ビタミンやミネラルが多く含まれ，野菜として栄養価が高いことが報告された。そのため，改めて食材としての価値が注目されている。また，中国では民間薬にも利用され，解毒，鎮咳作用から，高熱，喘息などに用いられる。

＜俳句や短歌への登場＞

【小水葱（こなぎ）の花：秋】　母の里へ辿る稲田のこなぎかな　（松瀬青々）

苗代の　子水葱が花を衣に摺り　馴るるまにまに何か愛しき　（詠み人知らず）『万葉集』

春霞　春日の里の　植子水葱（うゑこなぎ）苗なりといひし　枝はさしにけむ」（大伴駿河麻呂）『万葉集』

おのれまで恋路にぬれて苗代のこなぎがもとに鳴くかはづかな　（藤原知家）